

# 2014年度 事業報告書

理事長

佐田 直人

## 1. 事業内容

2014年度スローガン

温故知新

～魂を燃やし自ら未来への扉を開け～

## 2. 所感

「12、13歳までに神話を学ばなかった民族は例外なく滅びる」これはイギリスの歴史学者、アーノルド・J・トインビー博士の言葉です。つまり「長岡JCの歴史を学ばず、この組織に誇りを持たなければこの組織は無くなる」ということです。次年度段階において2013年度村田理事長が会員資質の向上を目指し多くの経験と学びを得た長岡JCですが、創立60周年を翌年に迎えるにあたり、さらなる会員資質向上が必要であると感じ、長岡と長岡JCの歴史を学び、この地域と組織を誇りにしてほしいという想い、そして、やらされではなく、すべて活動において他人事にならずど真ん中に立って自ら行動してほしいという想いを込めて、このスローガンを掲げさせていただきました。

我々青年は未来志向で我々の子供達のために明るい豊かな社会の創造に向けて未来を創っていかねばなりません。過去を語るだけではなにも変化を起こせませんし過去、現在を知ることにより良い未来を創造するための手段でしかありません。震災から10年、長岡もその先の未来を描く時期にきております。そのため多くの活動は過去、現在を知り、未来に繋げていく活動を展開しました。多くのメンバーがやらされではなく、正にど真ん中に立って生き生きと活動し、多くの学びと成長を得られたと確信しております。

感謝の言葉しかありません、18か月もの間、私に見える所、見えない所すべて長岡JCを守ってくれた大石専務理事、高頭事務局長、私の想いを理解し時には代弁者となり一緒に行動してくれた渡辺、五十嵐、深見、今井副理事長の皆さんと瀧川、中村、諏訪、高橋室長の皆さん、委員会のど真ん中に立って活躍してくれた齋藤、桑原、難波、山崎、丸山、青木、風間、佐藤委員長の皆さん、様々な角度からご指導いただきました村田直前理事長、茨木、丸山、田中監事、そしてすべてのメンバーに心から感謝申し上げます。

結びに未来の扉とは今年登り続けた階段の頂上にあります、その扉の向こうにはまた階段が続くことでしょう。そこで扉を開かずその位置で留まることもできます。しかし青年として自分を信じ更なる成長を願うのであれば勇気を持ってその扉を自分の手で開くべきなのです。2015年度という新たな階段をまた一步一步登り、扉を開き、また翌年と続けていく、ある時周りを見渡してみれば自分が随分高くまで登ってきているのに気づくはずです。そんな人生を歩んでください。一年間本当にありがとうございました。